

## Ⅱ 入学者の募集人員

学部	課程・学科・コース 教育プログラム(EP) (EP: Education Program)		入学定員		一般入試 アドミッション ・オフィス入試 (AO入試)	推薦入試	帰国生徒 入 試	外国学校 出身者 入 試	社 会 人 入 試	私費外国人留学生入試			YCCS 特 別 プログラム	
			前期 日程	後期 日程						YGEP -N1 (渡日入試)	YGEP -N1 (渡日前入試)	YGEP -N2 (渡日前入試)		
教 育 学 部	学校 教育 課程	人間形成コース	210	118	—	30	地域枠 10	若干名	—	—	—	—	—	
		教科教育コース		—	12									40
		特別支援教育コース	20	16		—	—	—	—	—	—	—		
	小 計	230	134	—	30	66	若干名	—	—	—	—	—	—	
・AO入試の入学手続者が、募集人員に満たなかった場合には、前期日程の合格者で補充します。 ・推薦入試の入学手続者が、募集人員に満たなかった場合には、前期日程の合格者で補充します。														
経 済 学 部	経済学科		238	125	90	15	—	—	若干名 (前期日程 内) 数	—	8	—	—	—
	・AO入試の入学手続者が、募集人員に満たなかった場合には、前期日程の合格者で補充します。 ・YGEP-N1(渡日入試)の入学手続者が、募集人員に満たなかった場合には、後期日程の合格者で補充します。 ・YGEP-N1(渡日入試)は、通常6名、GBEEP2名													
経 営 学 部	経営学科		287	128	98	15	34	若干名 (前期日程 内) 数	—	4	8	—	—	—
	・AO入試の入学手続者が、募集人員に満たなかった場合には、前期日程の合格者で補充します。 ・推薦入試の入学手続者が、募集人員に満たなかった場合には、後期日程の合格者で補充します。 ・社会人入試の入学手続者が、募集人員に満たなかった場合には、前期日程の合格者で補充します。 ・YGEP-N1(渡日入試)の入学手続者が、募集人員に満たなかった場合には、後期日程の合格者で補充します。 ・YGEP-N1(渡日入試)は、通常6名、GBEEP2名													
理 工 学 部	海 機 洋 械 系 学 科 ・ 材 料 ・	機械工学 EP	185	56	50	—	—	—	—	—	2	—	—	—
		材料工学 EP		18	16	8	—	—	—	—		—	—	
		海洋空間のシステムデザイン EP		17	8	10	—	—	—	—		—	—	
	学 生 化 科 命 学 系 ・	化学 EP・化学応用 EP	187	75	60	—	22	—	—	—	2	—	—	—
		バイオ EP		15	10	—	3	—	—	—	—	—	—	
	電 子 数 情 報 物 系 学 科 ・	数理科学 EP	287	20	15	—	—	—	—	—	2	—	—	—
		物理工学 EP		60	30	—	—	—	—	—			—	
電子情報システム EP		63		50	—	—	—	—	—	—				
	情報工学 EP	30	17	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
小 計	659	354	256	18	25	0	0	0	6	0	0	0		
・AO入試の入学手続者が、募集人員に満たなかった場合には、前期日程の合格者で補充します。 ・推薦入試の入学手続者が、募集人員に満たなかった場合には、前期日程の合格者で補充します。 ・YGEP-N1(渡日入試、渡日前入試)の入学手続者が、募集人員に満たなかった場合には、後期日程の合格者で補充します。														
都 市 科 学 部	都市社会共生学科		74	30	20	10	—	—	—	—	2	—	—	12
	建築学科		70	41	20	7	—	—	—	—	2	—	—	—
	都市基盤学科		48	18	12	10	—	—	—	—	3	5	—	—
	環境リスク共生学科		56	30	10	10	—	—	—	—	3	3	—	—
	小 計	248	119	62	37	0	0	0	0	10	8	12		
・AO入試の入学手続者が、募集人員に満たなかった場合には、前期日程の合格者で補充します。 ・YGEP-N1(渡日入試、渡日前入試)及びN2(渡日前入試)の入学手続者が、募集人員に満たなかった場合には、後期日程の合格者で補充します。														
合 計			1,662	860	506	115	125	若干名	若干名	4	32	8	12	

GBEEP : 正式名称はGlobal Business and Economics 教育プログラム。経済学部と経営学部が共同で実施する教育プログラムで、次のような特徴があります。①経済学と経営学の2つの学問領域を学修する。②英語による授業や海外学修の履修が課される。③卒業に必要な単位数は132単位以上で、通常のプログラム(124単位)よりも多い。なお、同プログラムを履修可能な入試は経済学部(AO入試、外国学校出身者入試、YGEP-N1)、経営学部(AO入試、帰国生徒入試、YGEP-N1)です。

YGEP-N1 : 正式名称は横浜グローバル教育プログラム。来日して日本語を学んできた外国人、又は来日前にある程度日本語を学んだ外国人で日本語能力試験N1相当の者を対象とした入試です。日本語能力試験の受験は必要ありません。入学後は日本人学生と一緒に通常カリキュラムを履修します。

YGEP-N2 : 正式名称は横浜グローバル教育プログラム。来日前に多少日本語を学んだ外国人で日本語能力試験N2相当の者を対象とした渡日前入試です。ただし、日本語能力試験の受験は必要ありません。入学後、1年次では日本語と日本事情を重点的に履修、2年次以降で日本人と一緒に専門分野を学習します。

### Ⅲ 一般入試

#### 1. 入学者選抜の実施方法

- (1) 入学者の選抜は、各学部の学科・課程の入学定員を分割し、「前期日程」及び「後期日程」の両試験日程でそれぞれ入学者を募集し、選抜試験を実施します。  
ただし、教育学部では後期日程の選抜を実施しません。
- (2) 選抜方法は、令和2年度大学入試センター試験の成績と本学が行う個別学力検査・実技検査・面接・調査書を総合して行います。
- (3) 大学入試センター試験は、必ず令和2年度大学入試センター試験のうち学部・学科等が指定する教科・科目をすべて受験してください。なお、「地理歴史」・「公民」において2科目受験する場合は、第1解答科目で指定した科目を受験してください。(本学では大学入試センター試験成績の過年度利用は行いません。)

#### 2. 出願資格

入学を志願できる者は、次のいずれかに該当し、かつ令和2年度大学入試センター試験において、各学部・学科等が指定する教科・科目のすべてを受験した者です。

- (1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者及び令和2年3月までに卒業見込みの者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び令和2年3月までに修了見込みの者
- (3) 学校教育法施行規則第150条第1号から第5号の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び令和2年3月31日までにこれらに該当する見込みの者
- (4) 本学において、個別の入学資格審査※により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したものと及び令和2年3月31日までに18歳に達するもの  
※詳細については19ページ(13. 個別の入学資格審査により出願する場合の手続について)をご覧ください。

#### 【参考】

学校教育法施行規則第150条の規定内容

1. 外国において学校教育における12年の課程を修了した者及び令和2年3月までに修了見込みの者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
2. 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び令和2年3月までに修了見込みの者
3. 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者及び令和2年3月までに修了見込みの者
4. 文部科学大臣の指定した者
5. 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(旧規定による大学入学資格検定に合格した者を含む。)及び令和2年3月31日までに合格見込みの者で、令和2年3月31日までに18歳に達するもの
6. 学校教育法第90条第2項の規定により大学に入学した者であって、当該者をその後に入学させる大学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
7. 大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したものと及び令和2年3月31日までに18歳に達するもの

### 3. 一般入試実施日程

- (1) 募集要項公表（配布）  
令和元年11月中旬
- (2) 出願期間  
前期日程及び後期日程共通  
令和2年1月27日（月）～令和2年2月5日（水）
- (3) 個別学力検査実施日  
前期日程 令和2年 2月25日（火）  
後期日程 令和2年 3月12日（木）
- (4) 合格者発表日  
前期日程 令和2年 3月 7日（土）  
後期日程 令和2年 3月21日（土）

### 4. 併 願

志願者は、国立大学・学部のうち、分離分割方式の「前期日程」で試験を実施する大学・学部から1つ、「後期日程」で試験を実施する大学・学部から1つ、合計2つの大学・学部に出願することができます。

従って、「前期－後期」の併願は認められますが、「前期－前期」、「後期－後期」の併願は認められませんので注意してください。

### 5. 出願に関する各学部別の留意事項

#### (1) 教育学部

- ①「人間形成コース・教科教育コース」と「特別支援教育コース」のいずれかを選択してください。原則として、入学後にコースを変更することは認めません。
- ②「人間形成コース・教科教育コース」（募集人員118人）は面接試験（集団）と、「小論文（教育課題論文）」・「音楽の実技」・「美術の実技」・「体育の実技」の中から1つの試験を選択して受験してください。

合格者の選抜は選択する試験科目ごとに行います。

<u>試験科目別合格予定者数</u>	小論文	94人
	音楽の実技	8人以内
	美術の実技	8人以内
	体育の実技	8人以内

「特別支援教育コース」は面接試験（集団）と「小論文（教育課題論文）」を受験してください。

- ③「人間形成コース・教科教育コース」に入学した者については、第1学年の10月頃までに、コース・専門領域を決定します。この決定は、入学試験時に選択した試験科目にかかわらず、本人の希望及び入学後の学習状況をもとに行います。ただし、特定のコース・専門領域を多数の者が希望した時には、選考試験を行います。

「人間形成コース・教科教育コース」の専門領域は、次のとおりです。

人間形成コース	教育基礎、心理発達、日本語教育
教科教育コース	国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭科、英語

④学校教育課程における修学上の留意事項については、本学のウェブサイトをご確認ください。  
<http://www.edu.ynu.ac.jp/campus/attention/vaccination/>

(2) 理工学部

- ①前期日程と後期日程のそれぞれにおいて、志望できる学科は1つに限ります。
- ②機械・材料・海洋系学科及び数物・電子情報系学科では、同じ学科内に限り、他の教育プログラムを第2志望とすることができます。ただし、化学・生命系学科では、第2志望を選択することはできません。化学・生命系学科の化学教育プログラム及び化学応用教育プログラムの学生募集は分けずに行い、教育プログラムの決定は、第2学年進級時に本人の希望と科目履修状況に基づいて行います。  
 各教育プログラムは、それぞれ教育内容に特徴があるので、第2志望の教育プログラムを選択する際は十分考慮してください。
- ③入学後に、同じ学科内の他の教育プログラムに変更を申請することができます(転E P制度)。変更を申請できる機会はいくらか定められた時期の1度のみで、入学後の成績を考慮して決定します。なお、変更できる人数には制限があります。また、化学・生命系学科の化学教育プログラムと化学応用教育プログラムの間の転E P制度はありません。

(3) 都市科学部

前期日程と後期日程のそれぞれにおいて、志望できる学科は1つに限ります。ただし、建築学科または都市基盤学科を志望する場合は、出願時に他方の学科を第2志望とすることができます。

6. 2段階選抜

入学志願者数が募集人員に対する予告倍率を超えた場合には、学部・学科等が指定する大学入試センター試験の成績及び調査書により、第1段階選抜を行う予定です。第1段階選抜を実施した場合は、その合格者についてのみ個別学力検査等を行います。

なお、大学入試センター試験において学部・学科等が指定する教科・科目を受験していない者は、「第1段階選抜の合格者判定」の対象とはしませんので注意してください。(各学部の個別学力検査等は受験できません)

第1段階選抜の方法

経済学部	前期日程 後期日程	① 入学志願者数が募集人員の約7倍(前期日程)及び約1.2倍(後期日程)を超えた場合には、2段階選抜を行う予定です。 ② 第1段階選抜は、大学入試センター試験(5教科8科目又は6教科8科目)の成績及び調査書によって行い、募集人員の約7倍(前期日程)及び約1.2倍(後期日程)を第1段階選抜合格者とします。
経営学部	後期日程	① 入学志願者数が募集人員の約8倍を超えた場合には、2段階選抜を行う予定です。 ② 第1段階選抜は、大学入試センター試験(5教科6科目又は5教科7科目)の成績及び調査書によって行い、募集人員の約8倍を第1段階選抜合格者とします。

◎教育学部前期日程、経営学部前期日程、理工学部前期・後期日程及び都市科学部前期・後期日程は2段階選抜を行いません。

## 7. 教科・科目名の表記

一般入試等の出題教科・科目名は、次のように略しています。

教科	科目名	表記	教科	科目名	表記
数 学	数学Ⅰ	数Ⅰ	理 科	物理基礎	物基
	数学Ⅱ	数Ⅱ		化学基礎	化基
	数学Ⅲ	数Ⅲ		生物基礎	生基
	数学A	数A		地学基礎	地学基
	数学B	数B		物理	物
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	コミュ英Ⅰ		化学	化
	コミュニケーション英語Ⅱ	コミュ英Ⅱ		生物	生
	コミュニケーション英語Ⅲ	コミュ英Ⅲ		地学	地学
	英語表現Ⅰ	英表Ⅰ			
	英語表現Ⅱ	英表Ⅱ			

## 8. 試験科目設定の意図

### (1) 教育学部

教員となるための資質として、広い視野・教育に対する関心・問題解決への強い意志を必要とします。このため、高校時代には読解力や英語力を身につけ、文理双方の幅広い基礎教科を学んでください。

一般入試では、読解力・文章作成力・論理的思考力などの教員になる上での基礎的な資質を評価するために小論文（教育課題論文）を課します。また、集団面接では、教員志望の熱意、コミュニケーション能力等の適性を確認します。

また、課程の教育理念に則り、小論文（教育課題論文）に代わるものとして、音楽・美術・体育の実技試験も行っています。実技試験では、学校教員として必要となる実技能力を備えているか、評価します。

### (2) 経済学部

高等学校では基本科目を幅広く学んでください。一般入試では数理的・論理的分析と国際コミュニケーション能力を重視します。前期日程では数学と英語を課し、後期日程では数学か英語のいずれかに秀でた人を求めます。

### (3) 経営学部

高等学校では、基礎となる数学、英語をはじめとして基本科目をしっかり学んでください。一般入試では、さまざまな問題に幅広く積極的に取り組めるよう前期日程では大学入試センター試験の偏りのない得点と高等学校での実績を重視します。後期日程では、論理的思考力と国際コミュニケーション能力を重視して、数学と英語に秀でた人を求めます。

### (4) 理工学部

#### 機械・材料・海洋系学科

高等学校では、機械・材料・海洋系学科で重要となる、数学、理科をはじめとして、国語、英語、地理歴史・公民などを幅広くしっかり学んでください。

大学入試センター試験科目では、5教科7科目を課し、数学、理科、外国語を中心に高等学校での幅広い学習成果を確認します。

一般入試の前期日程では、理工学を学ぼううえで重要な基礎となる数学、物理、化学、英語を課します。後期日程では、数学及び物理・化学に秀でた人を求めます。

## 化学・生命系学科

### ①化学E P・化学応用E P

高等学校では、化学はもちろんのこと、数学や物理などの基本科目をしっかり学んでください。

一般入試では、化学をはじめ、数学や物理に秀でた人を求めます。

前期日程では、数学、物理・化学に加え英語を課します。

### ②バイオE P

高等学校では、バイオサイエンスの学修に必要な生物を中心に、数学、物理、化学などの基本科目をしっかり学んでください。

一般入試の前期日程では、理科、数学及び英語の基礎学力を確認します。

なお、理科は前期日程では物理、化学、生物から2科目を選択、後期日程では物理と化学を課します。

## 数物・電子情報系学科

大学入学後の学修の土台となる基礎学力を育成するためには、高等学校では基本的科目を幅広く学んでもらうことが必要です。特に数物・電子情報系の広範な分野の基礎となる数学・物理・化学に関する学力をしっかり身につけておくことが重要です。また、国際社会で活躍する研究者、技術者を目指すためには、英語が重要であることはいまでもありません。

一般入試の前期日程では、数学、物理・化学、英語を課します。後期日程では、特に数学と物理・化学に秀でた人を求めますが、国際性を考慮し、センター試験においては外国語を重視して考查します。

## (5) 都市科学部

### 都市社会共生学科

高等学校では、文理双方の基礎科目を幅広く学んでください。

一般入試では、前期日程・後期日程ともに、国語及び地理歴史・公民の学力を土台として表現力と論理的思考を重視する小論文と、グローバルな感覚を問うために英語の試験を課します。

### 建築学科

高等学校では、建築学科で重要となる数学、理科をはじめとして、国語、英語、地理歴史・公民などを幅広く学んでください。

一般入試の前期日程では、数学、理科、英語を課します。後期日程では、数学、理科を必須科目とすることで、論理的能力に秀でた人を求めます。

### 都市基盤学科

高等学校では、都市基盤学科で重要となる数学、理科をはじめとして、国語、英語、地理歴史・公民などを幅広く学んでください。

一般入試の前期日程では、数学、理科、英語を課します。後期日程では、数学、理科を必須科目とすることで、論理的能力に秀でた人を求めます。

### 環境リスク共生学科

高等学校では、英語、数学、国語、社会、理科の基礎科目をしっかり学んでください。一般入試の前期日程においては数理的な能力や理科の能力、さらにグローバルな専門家として活躍するための英語力を問い、環境リスクを扱うために必要なバランスの良い学力を持つ人を求めます。後期日程では数学と小論文を課して論理的思考力と表現力に秀でた人を求めます。

## 9. 入学者選抜の実施教科・科目等（一般入試）

(1) 教育学部

コース名 募集人員	学力検査等の 区分・日程		大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等 (注3)										
	教科	科目名等 (注1)	教科	科目名等	試験の区分	科目名等	2段階 選抜	国語	地理歴史・公民	数学	理科	外国語	面接試験	小論文	実技	配点合計	
人間形成コース・ 教科教育コース  前期 118	前期 2月25日	国語 「世界史B」、「日本史B」、「地理B」から1又は2科目 「倫理、政治・経済」 公民 理科 ③「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」から2 ④「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から1 ⑤「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から2 ⑥「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」から2 及び「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から1 ⑦「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から2 ⑧「数学I・数学A」と 「数学II・数学B」、「簿記・会計」、「情報関係基礎」から1 外国語 「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」から1	「国語」 地理歴史・公民から2科目の場合、 理科は③又は④ 地理歴史・公民から1科目の場合、 理科は③又は④ ⑤～⑧のいずれか	その他 面接試験と小論文 実技のうち1つを選抜する (注2)	センター試験	国語	200	200	100	200	100	200	200				900
						地理歴史・公民 個別学力検査等										200	*200
特別支援教育コース  前期 16	前期 2月25日	国語 「世界史B」、「日本史B」、「地理B」から1又は2科目 「倫理、政治・経済」 公民 理科 ③「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」から2 ④「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から1 ⑤「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から2 ⑥「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」から2 及び「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から1 ⑦「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から2 ⑧「数学I・数学A」と 「数学II・数学B」、「簿記・会計」、「情報関係基礎」から1 外国語 「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」から1	「国語」 地理歴史・公民から1科目の場合〔5教科7科目〕又は〔5教科8科目〕 地理歴史・公民から2科目の場合〔5教科7科目〕又は〔5教科8科目〕 又は〔6教科7科目〕又は〔6教科8科目〕	その他 面接試験と小論文 (注2)	センター試験	国語	200	200	100	200	100	200					900
					個別学力検査等								200	200		400	
					計	200	200	100	200	100	200	200	200	*200	*200	1300	

(注1) 1. 「理科」で◎を選択する場合、同一名称を付した科目（例：「物理基礎」と「物理」など）の選択を認めます。

2. 「地理歴史」・「公民」から2科目、「理科」で◎を選択して受験した場合は、まず、「地理歴史」・「公民」の第1解答科目の得点を採用し、次いで「地理歴史」・「公民」の第2解答科目の得点、「理科」の基礎を付さない1科目の得点のうち、得点の高い順に2つの得点を合否判定に用います。

3. 「地理歴史」・「公民」から2科目、「理科」で◎を選択して受験した場合は、まず、「地理歴史」・「公民」の第1解答科目の得点と「理科」の第1解答科目の得点を採用し、残りの1科目は「地理歴史」・「公民」及び「理科」の第2解答科目のうち得点の高い科目の得点を合否判定に用います。

4. 「簿記・会計」、「情報関係基礎」を選択解答できる者は、専門教育を主とする学科及び総合学科を持つ高等学校若しくは中等教育学校においてこれらの科目を履修した者（旧教育課程でこれらに相当する科目を履修した者及び大学入学資格検定でこれらに相当する科目を合格している者を含む。）及び専修学校の修了（見込み）者に限ります。なお、「情報関係基礎」を履修した者には、普通教科「情報」・「情報の科学」等）を履修した者は該当しません。

5. 「英語」についてはリスニングテストを含みます。（「リスニングテスト」の免除を許可された者を除く。）

6. 「英語」以外の科目は、教員になるという意志が強く、教員になる上での資質の高い学生を選抜するため、受験者全員に面接試験（集団）を課します。

7. 「小論文」の内容は、以下のとおりです。「音楽の実技」、「美術の実技」、「体育の実技」の内容は17ページをご覧ください。

8. 「小論文（教育課題論文）」：教育に関する日本語の文章をはじめ絵・図・表などの読み解き、あるいはそれらに基づいた文章の作成などにより、読解力・文章作成力・論理的思考力などの教員になる上での基礎的な資質を評価します。（なお、設問によっては、一部に英文を含むこともあります。）

9. 「地理歴史」・「公民」及び「理科」の配点について、「地理歴史」・「公民」の得点が採用された科目が1科目の場合には、（ ）内の配点で計算します。

10. 大学入試センター試験外国語の英語を受験した場合の配点は、筆記試験200点満点とリスニングテスト50点満点の合計250点満点を以下のとおり200点満点に換算します。

(筆記試験200点＋リスニングテスト50点) × 0.8

(2) 経済学部

学科名 募集人員	学力検査等の 区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等 (注4)						
		教科	科目名等 (注1)	教科	科目名等 (注2)	試験の区分	国語	地理歴史・公民	数学	理科	外国語	配点合計
経済学科 前期 125 後期 90	前期 2月25日	国語 地理歴史 公民 倫理・政治・経済 数学 「世界史A」、「世界史B」、「日本史A」、「日本史B」、「地理A」、「地理B」から2	数学 数Ⅰ、数Ⅱ、数A、数B 外国語 英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲ、英語Ⅳ、英語Ⅰ、英表Ⅱ	数学 数Ⅰ、数Ⅱ、数A、数B 外国語 英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲ、英語Ⅳ、英語Ⅰ、英表Ⅱ	センター試験 個別学力検査等	200	200	200	200	100	200	900
	後期 3月12日	物理 「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」基礎を付した科目から2 又は「物理」、「化学」、「地学」基礎を付さない科目から2 外国語 「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」から1	数学 数Ⅰ、数Ⅱ、数A、数B 外国語 英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語Ⅲ、英語Ⅳ、英語Ⅰ、英表Ⅱ	センター試験 個別学力検査等	200	200	200	200	100	200	900	

(注1) 1. 「地理歴史」から2科目選択する場合は、同一名称を含む科目は選択できません。(「世界史A」と「世界史B」、「日本史A」と「日本史B」、「地理A」と「地理B」の組み合わせがこれに該当します。)  
2. 「物理」、「化学」、「生物」、「地学」の4科目の中から2科目を選択した場合には、基礎を付していない科目を基礎を付した科目とみなします。

3. 「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」の4科目の中から2科目と、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」の4科目の中から1科目を選択した場合に、基礎を付した科目を合格判定に用います。  
4. 「簿記・会計」、「情報関係基礎」を選択解答できる者は、専門教育を主とする学科及び総合学科を持つ高等学校若しくは中等教育学校においてこれらの科目を履修した者(旧教育課程でこれらに相当する科目を履修した者及び大学入学資格検定でこれらに相当する科目を合格している者を含む。)及び専修学校の高等課程の修了(見込み)者に限ります。なお、「情報関係基礎」を履修した者には、普通教科「情報」として開講された科目(「社会と情報」・「情報の科学」等)を履修した者は該当しません。  
5. 「英語」についてはリスニングテストを各みます。(「リスニングテスト」の免除を許可された者を除く。)

(注2) 個別学力検査で課す数学の出題範囲

1. 「数Ⅰ」、「数Ⅱ」及び「数A」については全項目とします。  
2. 「数B」については「数列」及び「ベクトル」とします。

(注3) 1. 後期日程については「数学」又は「英語」を出願時に選択して受験してください。

(注4) 1. 配点に※印を付してある教科は選択教科を表します。

2. 大学入試センター試験理科の基礎を付していない科目を受験した場合の配点は、200点満点を以下のとおり100点満点に換算します。  
200点×0.5  
3. 大学入試センター試験外国語の英語を受験した場合の配点は、筆記試験200点満点とリスニングテスト50点満点の合計250点満点を以下のとおり200点満点に換算します。  
(筆記試験200点+リスニングテスト50点)×0.8

(3) 経営学部

学科名 募集人員	学力検査等の 区分・日程		大学入試センター試験の利用教科・科目名 科目名等 (注1)		個別学力検査等 科目名等 (注2)		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等 (注3)							
	前期	後期	教科	科目名等	教科	科目名等	試験の区分	国語	地理歴史・公民	数学	理科	外国語	調査書	配点合計
経営学科 前期 128 後期 98	前期		国語 地理歴史 公民 数学	「国語」 「世界史A」、「世界史B」、「日本史A」、「日本史B」、「地理A」、「地理B」から1 「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」、「倫理、政治・経済」		個別学力検査を課さない。	センター試験	200	100	200	100	200		800
	後期	3月12日	理科 外国語	「数学I・数学A」と 「数学II・数学B」、「簿記・会計」、「情報関係基礎」から1 「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」基礎を付した科目から2 又は「物理」、「化学」、「生物」、「地学」基礎を付さない科目から1 「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」から1	数学 数A、数B 外国語 コミュ英I、コミュ英II、コミュ英III、英表I、英表II	約8倍	センター試験 個別学力検査等	100	50	100	50	100		400
				(5教科6科目)又は(5教科7科目)			計	100	50	300	50	300		800

大学入試センター試験と個別学力検査等の成績を1対1の比率に換算する。

(注1)

- 「地理歴史」及び「公民」において2科目を受験した者については、第1解答科目の得点を合否判定に用います。
- 「地理歴史」のA科目を第1解答科目として選択できる者は、高等学校若しくは中等教育学校においてA科目を履修した者（高等学校卒業程度認定試験又は大学入学資格検定で「地理歴史」のA科目を合格している者を含みます。）に限り、第1解答科目として選択できない科目の両方の科目を受験した場合には、得点の高い科目を合否判定に用います。
- 「理科」について基礎を付した科目及び基礎を付していない科目の両方の科目を受験した場合には、第1解答科目の得点を合否判定に用います。
- 「理科」について基礎を付していない科目を2科目受験した場合には、第1解答科目の得点を合否判定に用います。
- 「簿記・会計」、「情報関係基礎」を選択解答できる者は、専門教育を主とする学科及び総合学科を持つ高等学校若しくは中等教育学校においてこれらの科目を履修した者（旧教育課程でこれらに相当する科目を履修した者及び大学入学資格検定でこれらに相当する科目を合格している者を含む。）及び専修学校の高等課程の修了（見込み）者に限り、専攻科目「情報」及び「情報関係基礎」を履修した者には、普通教科「情報」として開講された科目（「社会と情報」、「情報の科学」等）を履修した者は該当しません。
- 「英語」についてはリスニングテストを含みます。（「リスニングテスト」の免除を許可された者を除く。）

(注2)

- 個別学力検査で講ずる教科の出題範囲
- 「数I」、「数II」及び「数A」については全項目とします。
  - 「数B」については「数列」及び「ベクトル」とします。

(注3)

- 大学入試センター試験の配点にあたっては、上記掲載の配点は、筆記試験200点満点とリスニングテスト50点満点の合計250点満点を以下のとおり200点満点、100点満点に換算します。
  - 大学入試センター試験外国語の英語を受験した場合の配点は、筆記試験200点満点とリスニングテスト50点満点の合計250点満点を以下のとおり200点満点、100点満点に換算します。
- 前期日程：200点満点（筆記試験200点＋リスニングテスト50点）×0.8  
後期日程：100点満点（筆記試験200点＋リスニングテスト50点）×0.8×0.5





**〔注1〕** 1. 「簿記・会計」、「情報関係基礎」を選択解答できる者は、専門教育を主とする学科及び総合学科を持つ高等学校若しくは中等教育学校においてこれらの科目を履修した者及び大学入学資格検定でこれらに相当する科目を合格している者を含む。）及び専修学校の高等課程の修了（見込み）者に限ります。なお、「情報関係基礎」を履修した者には、普通教科「情報」・「社会と情報」・「公民」の第1解答科目の得点を付さない1科目の得点のうち、得

2. 「英語」についてはリスニングテストを含みます。（「リスニングテスト」の免除を許可された者を除く。）

**〔注2〕** 1. 「理科」で②を選択する場合、同一名称を付した科目（例：「物理基礎」と「物理」など）の選択を認めず、  
2. 「地理歴史」・「公民」から2科目、「理科」で②を選択して受験した場合、まず、「地理歴史」・「公民」の第1解答科目の得点を採用し、次いで「地理歴史」・「公民」の第2解答科目の得点を付さない1科目の得点のうち、得点の高い順に2つの得点を合否判定に用います。  
3. 「地理歴史」・「公民」から2科目、「理科」で②を選択して受験した場合は、まず「地理歴史」・「公民」の第1解答科目の得点を採用し、残りの1科目は「地理歴史」・「公民」及び「理科」の第2解答科目のうち得点の高い科目の得点を合否判定に用い

**〔注3〕** 「地理歴史」及び「公民」において2科目を受験した者については、第1解答科目の得点を合否判定に用います。

**〔注4〕** 環境リスク共生学科学科の理科は物基・物・化基・化・生基・生、地学基・地学の4科目の中から2科目を受験してください。

**〔注5〕** 1. 都市社会共生学科学科においては「地理歴史」・「公民」及び「理科」の配点について、「地理歴史」・「公民」の採用された科目が1科目の場合には、（ ）内の配点で計算します。

2. センター試験の配点にあたっては、上記掲載の配点に換算します。

3. 大学入試センター試験外国語の英語を受験した場合の配点は、筆記試験200点満点とリスニングテスト50点満点の合計250点満点を以下のとおり200点満点、300点満点に換算します。

200点満点（筆記試験200点＋リスニングテスト50点）×0.8

300点満点（筆記試験200点＋リスニングテスト50点）×0.8×1.5

【小論文】の内容は、以下のとおりです。

**〔注6〕** 都市社会共生学科学科：これからの都市を様々な課題することを背景におきながら、共生社会と多様性のあり方、文化や芸術の可能性、グローバルとローカルの接合などに関連して提示された人文社会領域の素材について、内容把握の読解力、問題点を解決するための発想力、考えを表現するための論理的思考力や表現力を評価します。

環境リスク共生学科学科：自然環境や生態環境、社会環境の様々なリスクに関連して提示された素材に関し、内容把握の読解力、問題点を解決するための発想力、考えを表現するための論理的思考力や表現力を評価します。

**〔注7〕** 個別学力検査の出題範囲

1. 「教I」、「教II」、「教III」及び「教A」は全範囲から出題します。

2. 「教B」は「教列」、「ベクトル」を出題範囲とします。

3. 「物基・物」は物理基礎・物理の全範囲から出題します。

4. 「化基・化」は化学基礎・化学の全範囲から出題します。

5. 「生基・生」は生物基礎・生物の全範囲から出題します。

6. 「地学基・地学」は地学基礎・地学の全範囲から出題します。

# 10. 教育学部の実技検査

## 【学校教育課程人間形成コース・教科教育コース】（前期日程）

<p>音 楽</p>	<p>次の1、2の試験を課す。2については「実技試験の詳細」欄を参照のうえ、選択肢(1)、(2)、(3)の中から1つを選び、受験すること。</p> <p>1. 聴音 2声の書き取り（大譜表、8小節程度）</p> <p>2. 実技試験</p> <p>(1)ピアノA+声楽B (2)声楽A+ピアノB (3)ピアノ以外の楽器+ピアノB+声楽B</p> <p>(実技試験の詳細)</p> <p>◆ ピアノA W. A. モーツァルトのピアノ・ソナタの中から任意の1曲を選択し（K. 282を除く）、第1楽章を暗譜で演奏する（繰り返しは省略）。 注）市販のピアノ・ソナタ集（W. A. モーツァルト）には、「幻想曲」ハ短調 K. 475 が収録されているが、K. 282と同様に選択肢から除外する。</p> <p>◆ ピアノB J.S.Bach：「インヴェンション2声」の中から任意の1曲を演奏する（視奏も可）。</p> <p>◆ 声楽A 次の曲の中から任意の1曲を選び、原語の歌詞、暗譜で歌う。調は（ ）内に指定されたものから選ぶこと。 L.Mancia : Star vicino（ト長調、イ長調、変ロ長調） G.Bononcini : Per la gloria d'adorarvi（ニ長調、ヘ長調、ト長調）</p> <p>◆ 声楽B コンコーネ50番 Op.9 第16番～第18番の中から、当日指定される1曲を歌う。 1) 移動ド、固定ド、もしくは母音による視唱。 2) 高声・中声・低声用のいずれかを各自が選択すること。</p> <p>◆ ピアノ以外の楽器（電子楽器を除く） 5分程度の任意の1曲を演奏する（伴奏は無し、楽器は各自持参すること）。 なお、入学後の器楽指導はピアノが中心となる。</p> <p><b>※ 当日は筆記用具、昼食、上履きを持参すること。</b></p>
<p>美 術</p>	<p>次の1、2の試験を課す。</p> <p>1. 鉛筆デッサン（B3画用紙に人物の上半身を鉛筆でデッサンする。2時間30分） * デッサン用具を持参すること。</p> <p>2. 総合的な造形（小学校図画工作や中学校美術の教科書にあるような内容。2時間30分） テーマ：紙粘土でつくる野菜 * 着色用具一式（アクリル絵の具、パレット、筆、筆洗、雑巾）を持参すること。</p> <p><b>※ 昼食を持参すること。</b> 試験の時間割上、昼食休憩が遅めの時間帯となっているため、午前の休憩時間に軽食を推奨している。</p>
<p>体 育</p>	<p>次の1、2の試験を課す。なお、個別の内容・課題は、試験当日監督者から説明する。</p> <p>1. 次の4種目の実技すべてを行い、基礎的な運動能力と技能を総合的に評価する。 ① 器械運動 ② 陸上運動 ③ 表現運動 ④ ボール運動</p> <p>2. 次の①～⑩の種目の中から1種目を選択し、その専門的な運動能力と技能を総合的に評価する。 ① 陸上競技 ② ダンス ③ 剣道 ④ 柔道 ⑤ バレーボール ⑥ バスケットボール ⑦ サッカー ⑧ テニス（硬式） ⑨ 野球（軟式を含む） ⑩ 器械運動</p> <p>* 運動着および運動靴（体育館用並びに屋外用）を持参すること。 * 運動着の前後にゼッケン（20cm×20cmの白布に受験番号を黒書したもの）を縫い付けること。 安全ピンの使用は禁止する。 * 陸上競技、サッカー、野球では、スパイクの使用可。 * テニス、サッカー、野球、柔道、剣道を選択する者は、次に示す用具を各自持参すること。 テニス：ラケット、テニスシューズ サッカー：すねあて 野 球：グローブ、バット（木製に限る） 柔 道：柔道着 剣 道：剣道具、竹刀</p> <p><b>※ 昼食を持参すること。</b></p>

## 1 1. 欠員の補充等

入学手続締切期日後に入学手続完了者が入学定員に満たない場合は、原則として追加合格により欠員補充を行います。また、必要がある場合には欠員補充第2次募集を行います。

## 1 2. 一般入試に係る入試情報開示

横浜国立大学では、入試情報の開示を次のとおり行います。

### (1) 入試問題の正解・解答例等の情報開示

- ①入試問題（面接・実技を除く）の正解・解答例または出題意図（合格者発表後概ね14日間程度開示します。）

横浜国立大学>入試情報>学部入試>一般入試の情報開示

<https://www.ynu.ac.jp/exam/faculty/public/index.html>

- ②合格者の最高点、最低点、平均点（令和2年4月中旬に開示します。）

ただし、合格者が5人未満の場合は開示しません。

注）経済学部については、偏差値の合計を併記します。

横浜国立大学>入試情報>学部入試>過去の入試データ

<https://www.ynu.ac.jp/exam/faculty/enforce/index.html>

### (2) 入試個人成績の情報開示

#### ①開示対象者

一般入試を受験し不合格となった者を対象とします。

なお、後期日程受験者で、前期日程に合格し令和2年3月15日（日）までに入学手続を行った者は、開示対象とはなりません。

#### ②開示内容

(ア) 試験成績：総合点（大学入試センター試験及び個別学力検査等の合計）を開示します。

注）経済学部については、偏差値の合計で開示します。

(イ) 調査書：調査記載事項の平均点及び概評のみ開示します。

#### ③申込期間

令和2年5月15日（金）～7月14日（火）【必着】〔土・日曜日、祝日は除く〕

申込時間 8：30～12：00、13：00～17：00

#### ④申込者

受験者本人に限ります。（代理人による申込みは認めません。）

#### ⑤提出書類

(ア) 横浜国立大学入試情報開示申請書（本学所定用紙）

(イ) 返信用封筒（長形3号：120mm×235mm）に郵便番号・住所・受験者本人氏名を明記のうえ、所定の郵便料金（令和元年11月に発行する一般入試学生募集要項を参照）の切手を貼付したもの。前期日程と後期日程の両方の成績を申請する場合でも返信用封筒は1通のみ。）

(ウ) 横浜国立大学受験票及び大学入試センター試験受験票

#### ⑥申込方法

郵送又は窓口にて受付します。詳細は、一般入試学生募集要項にて確認してください。

#### ⑦開示方法

受験者本人へ簡易書留郵便で後日送付します。

### 1 3. 個別の入学資格審査により出願する場合の手続について

2. 出願資格(p.6)のうち、(4)に基づき出願する場合は、本学への出願前に必ず個別の入学資格審査を申請し、認定を受けてください。(出願資格(1)～(3)により出願する場合は、この手続を行う必要はありません。)

#### (1) 入学資格認定申請書の入手方法

次のいずれかの方法により、入学資格認定申請書(本学所定様式)を入手してください。

- ①本学所定様式を受け取るための返信用封筒(長形3号。申請者氏名・住所を明記し、所定の郵便料金(第1回申請期間は92円分。第2～3回申請期間は令和元年11月に発行する一般入試学生募集要項を参照。)の切手を貼付すること。)を、本学学務部入試課に送付する。
- ②本学ウェブサイト(<https://www.ynu.ac.jp/exam/faculty/qualification.html>)から、本学所定様式をダウンロードおよび印刷する。

#### (2) 審査要件(①～③いずれにも該当することが必要です。)

- ①専修学校、各種学校その他の教育施設(学校教育法第1条に掲げるものを除く。)において3年以上の学習歴があり、おおむね74単位(2,590単位時間)相当以上(平成11年度以前の入学者にあっては80単位(2,800単位時間)相当以上。単位(単位時間)については、高等学校学習指導要領による。)修得している者又は令和2年3月修得見込みの者。
- ②前号の単位(単位時間)には、おおむね国語(相当する教科を含む。以下の各教科において同じ。)、地理歴史又は公民、数学、理科、外国語の5教科の単位(単位時間)を含んでいること。
- ③18歳に達したものと及び令和2年3月31日までに18歳に達するもの

#### (3) 申請期間

##### (第1回申請期間)

郵送受付：令和元年8月 1日(木)～8月23日(金)【必着】書留速達郵便に限る 窓口受付：令和元年8月22日(木)～8月23日(金) 8:30～17:00
--

##### (第2回申請期間)

郵送受付：令和2年1月17日(金)～1月21日(火)【必着】書留速達郵便に限る 窓口受付：令和2年1月20日(月)～1月21日(火) 8:30～17:00
--

##### (第3回申請期間)

窓口受付のみ：令和2年1月27日(月) 17時までに本学学務部入試課に申し出ること。 ※対象は大学入試センター試験追試験受験者のみ。 ※大学入試センター試験追試験許可書を提示すること。
--

#### (4) 提出書類

- ①入学資格認定申請書(本学所定様式)
- ②調査書(各教科・科目の学習記録等が含まれているもの。)又は、最終出身学校等の卒業(見込)証明書及び成績証明書
- ③出身学校等のカリキュラム表等、教育課程が確認できる書類
- ④入学資格審査結果の通知を受け取るための返信用封筒(長形3号。申請者氏名・住所を明記し、所定の郵便料金(第1回申請期間は682円分。第2～3回申請期間は令和元年11月に発行する一般入試学生募集要項を参照。)の切手を貼付すること。)

#### (5) 本学所定様式の請求先および提出書類の送付先

横浜国立大学学務部入試課 〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-8 (TEL.045-339-3121)